翼のもげた少年

グーフィ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
翼のもげた少年

【Ｎコード】
Ｎ４８９２Ａ

【作者名】
グーフィ

【あらすじ】
少年に翼がはえました。いろいろな事があります。

（前書き）

まだまだ未熟ですがみてってください。

僕には翼がある。今僕は空をとんでいる。地上にいる人々が、豆粒のように見える。そうしているうちに、雲の上まで来てしまった。そして、僕は上えあがっていく。

突然、翼が消えた僕は真っ逆さまに落ちていく。
・・・・もうすぐ地面にぶつかる。・・・・・・・・・・・・・もう駄目だ。・・・・・・・・・・・・・・・・・・

そして、僕は夢から覚めた。
・・・「チュンチュン」
なんだ？まぶしいぞ。僕は目を開けた。
「なんだよ、日の光が当たっていたのか。」
気付くと僕は、全身汗まみれだった。まあ、あんな夢をみたあとだから、しょうがない。でも、背中に違和感がある。
僕はいつも通り学校の制服にきがえて、朝食をとりにいった。
今日の朝食は、ご飯に味噌汁、納豆にあじの開きだ。
（なんて日本らしい朝食のメニューだろう。）
僕は早速それに食らいついた。
（やっぱり家の朝ごはんはうまい。）
僕は朝食を食べ終えると。学校のしたくをして、学校に直行。
学校にいっている途中、友達の隆志（たかし）に会った。
言い忘れていたけど、僕の名前は健太。（ありきたりな名前だ。）
そして、僕は隆志に夢の話をした。
話終えると、隆志は、

「お前変な夢みすぎだよ。もしかしておもらししちゃったんじないの。」
「そんなことないっスよ。でも、本当に怖かったんだよ。」と僕。
そのあとも、二人で、いろいろな話をしているうちに、学校に着いた。
そのあとも、平凡な学校生活が続いた。
そして、5時間目。
またしても、背中にあの違和感があらわれた。今度は、朝よりも強く、いたくなっていた。
あまりの痛さに全く授業に集中できなかった。
痛い、痛すぎる・・・・そして僕にふさふさとした翼が生えた。
周りにいる人は顔が真っ青になっている。
僕は訳がわからなくなって、教室を飛び出した。
「どうなっているんだ。今日見た夢みたいだ。」
翼がかってにはばたき始めた。もちろん僕は天井に頭を強打！
「いたっ」
でも、今は痛みなんて気にしてはいられない。僕はなんとか外にでることができた。
そして、そのまま上空へとあがっていった。
「どうやってこの翼を止めればいいんだ？それに地面におりれたとして
そのあとどうすればいいんだ。」
そんなことをかんがえていうちに、雲の上まできてしまった。
夢の通りならここらへんでつばさがなくなるはずだ。
やはり、翼はきえてしまった。
僕は地面に向かっておちていく。このままじゃ僕は死んでしまう。
「もう・・だめだ。・・うわーーーーーーーーーーーーーーーー・・

・・・・・・
・・・・・」
そして僕は気を失い地面にぶつかった。
僕は死んだ。

はずだった。
やはりこんなことがあるはずがない。
もちろん夢だ。
僕は飛び起きた。
「はあ、はあ、なんだよ夢か。」
僕は制服に着替えた。
そして、朝食をとりに一階におりていった。

（後書き）

感想をかいてくれるとうれしいです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4892a/

翼のもげた少年

2010年12月27日23時54分発行